

# 追悼 名誉市民 新川 和江

1929-2024



未来の空へ  
はばかましよう  
つばさまで

新川和江



市ホームページ



図書館ホームページ

ゆうき図書館名誉館長室にて撮影。書はその時に寄稿いただいた作品です。(平成21年)

広報結城 2024・10

## 詩との出会い

詩人で本市の名誉市民の新川和江さんが、去る令和6年8月10日に逝去されました。95歳でした。

新川さんは、昭和4（1929）年4月に絹川村（現結城市）小森に生まれました。県立結城高等女学校（現県立結城第二高等学校）に在籍していた15歳の時に、下館町（現筑西市）に疎開してきた詩人・西條八十に師事し、詩の手ほどきを受けました。卒業後17歳で新川淳さんと結婚して上京し、学習雑誌や少女雑誌に詩・童謡・少女小説を書き始め、昭和28（1953）年に、第一詩集「睡り椅子」を刊行しました。

## 詩壇での活躍

昭和41（1966）年に発表した代表作「わたしを束ねないで」は、上皇后陛下がご愛読され、英訳されたことでも知られています。昭和59（1984）年に中学校の国語の教科書に掲載されてから、現在も多く生徒が学んでいます。

昭和56（1981）年に日本現代詩人会理事長、同会長を歴任し、第一線で詩壇をけん引しました。また、昭和58（1983）年には女性のための季刊詩誌「現代詩ラ・メール」を創刊し、ラ・メール新人賞を創設して後進育成に尽力しました。平成5（1993）年の終刊まで編集に携わり、女性詩人の活動を支援しました。

文学賞においては、昭和35（1960）年の「季節の花詩集」で小学館文学賞受賞を皮切りに、室生犀星詩人賞、現代詩人賞、詩歌文学館賞、日本童謡賞、藤村記念歴程賞、丸山薫賞などを受賞しました。

栄典においては、昭和59（1984）年に結城市民栄誉賞受賞、平成12（2000）年に勲四等瑞宝章受章、平成13（2001）年、結城市名誉市民の称号を贈られました。

また、H氏賞・現代詩人賞運営委員長など、文学賞の審査員としても活躍し、ほかにも産経新聞一面に掲載している「朝の詩」の選者を、昭和57（1982）年から平成30（2018）年まで36年間務めました。



幼少期



女学生時代



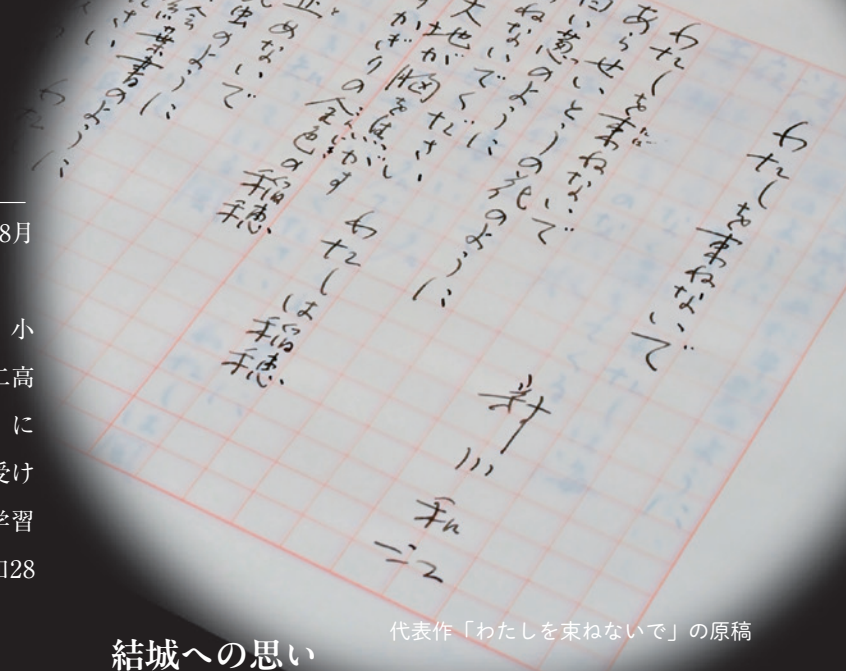
「現代詩ラ・メール」の頃



第1回新川和江賞表彰式（平成21年）

名誉市民が死亡した際には市葬により弔意を表すことになっていましたが、ご遺族が辞退されましたので市葬は行わないことになりました。

広報結城 2024・10



代表作「わたしを束ねないで」の原稿

## 結城への思い

昭和59（1984）年の市制施行30周年記念事業では、新川さんの作詞による「結城市民の歌」が作られ、故郷のすばらしさを表現しました。今日、正午になると各地区の防災無線からそのメロディーが流れてきます。

平成16（2004）年のゆうき図書館開館に合わせ名誉館長に就任し、詩に関する図書約10,000冊を同館に寄贈いただきました。それらの図書に加え、師である西條八十の元へ初めて持参した詩のノートや幼少期の写真など、貴重な資料は「新川和江コレクション」として図書館3階・4階の「ギャラリー1・2」に常設展示されています。

ゆうき図書館開館5周年を記念して平成20（2008）年に、「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」を創設しました。本市の文芸振興と創造性豊かな青少年の育成、ならびに郷土の新たな才能を発掘することを目的に創設されました。新川さんは、「詩を書くことは、心の動きを活発にします。創造力を豊かにし、積極的に未来に向かう気持ちを培ってほしい、すべての子どもが健やかな社会に育ってほしい。」と話していました。

詩を愛する心は市民に受け継がれ、郷土を愛する心は市民に歌い継がれていくことでしょう。謹んでご冥福をお祈りいたします。

現在、図書館1階に追悼コーナーを設置しています。